

敬天新聞社御中

編集部様

貴社、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

いつも貴紙の痛快な記事をワクワクしながら拝読させて頂いております。

特に最近の日大問題については、大手マスコミなど足元にも及ばない独占記事にはつくづく感心しています。

さて、私は某中堅証券の証券マンです。

現在は調査部に配属されていますが、ようやく仕事にも慣れ、株式市場の裏表も少しは分かるようになりました。

今回が初めての投書ですが、このところ証券市場で話題になっている、**秋元康氏**が関与していると噂になっている **Key Holder 株**（明珍徹社長・港区虎ノ門・ジャスダック市場）をめぐる **インサイダー取引疑惑**について、私の知りうる限りのことを投書させて頂きました。秋元氏といえば、放送作家、作詞家、そしておニャン子クラブを皮切り

に、AKB48、乃木坂46などアイドルグループのプロデューサー業など、多彩な活動で知られています。

周知のとおり、インサイダー取引は金融商品取引法（第166条）で禁止されている違法行為です。

おそらく多くの方は、秋元氏がインサイダー取引をするとは？と首をかしげるかもしれませんが、証券関係者の間では、「秋元氏が、常習と言ってもいいぐらい頻繁にインサイダー取引に関与してきたこと」は“常識”とされています。

秋元氏の名前が株式市場で取り沙汰されたのは、ライブドアによる**ニッポン放送買収事件**（2005年）の頃あたりからですが、その後、秋元氏が関与した銘柄は、ひとつやふたつではありません。

「秋元銘柄」と言われているのは、プランジスタ（マザーズ）、エムアップ（1部）、イグニス（マザーズ）、enish（1部）、ピーマップ（ジャスダック）などですが、いずれの銘柄も秋元氏が、「最高顧問に就任する」、「アドバイザー契約を結んだ」、あるいは「秋元氏のグルー

プ会社と業務提携する」という発表で、ほとんどの銘柄が10倍近く、なかには30倍以上も値上がりしています。

そして現在、新たなインサイダー銘柄として画策中と言われているのが、ジャスダック市場の **Key Holder 社** で、目下、ネットの掲示板では **「秋元氏が今月にも同社の20億円の増資を引き受ける」** という書き込みでにぎわっています。

こうした噂に対して、Key 社はIRを出し(6/5)、**「そんな予定はない」** と頑なに否定していますが、火のないところに煙は立ちません。

Key 社が新規事業のために増資することは前向きな経営判断であり、とやかく口を挟むことではないのですが、問題は、その割当先が秋元氏という点です。

秋元氏の手口は巧妙で、同氏が直接、株式売買に関与するのではなく、前述したように、「顧問に就任する」、「アドバイザー契約を結ぶ」、あるいは「AKB48を商品キャラクターにする」などという「ニュー

ス」を発表する前に、ダミー会社やお気に入りのアイドルグループ関係者などに株を購入させ、暴騰したところで売り抜けるというものです。

極めて悪質です。

しかし、なぜ秋元氏は、頻繁にインサイダー取引に関与するのか。

「(秋元氏の) **カジノ通い**は知る人ぞ知るところですが、腕はお世辞にも良くないようで、おそらく億単位の損失を埋めるためにインサイダー取引に関与しているのではないのでしょうか」(某芸能プロダクション関係者)

カジノ遊びに興じることは、別に違法ではありませんが、インサイダー取引に関与することで、その尻拭いをするのは大きな問題です。

また、秋元氏は、過去に某誌のインタビューに「我々の仕事は不安定なうえに潰しがきかない。我々のようなレベルの人間でもいつ仕事なくなるか不安を抱いている」と語っています。

芸能界は浮き沈みの激しい業界だけに、こう考えるのは当然でしょう。

が、いくら「その日のために備え、稼げるうちに稼げ」といえども、それをインサイダー取引に求めるのは、東京五輪・パラリンピックの組織委員会理事という名誉ある公職に泥を塗る暴挙です。

金欠気味の Key Holder 社が、起死回生を願って、新宿アルタでのエンタメ事業に懸ける意気込みはわかります。

今回の増資の成否が、企業の存亡にかかわる大事であることはわかります。

とはいえ、選りのも選ってその相手が秋元康とは！——なりふり構わぬ増資は、結果的に多くの株主を裏切ることになるのではと危惧します。

以上